

■使用頻度の高い語彙とは

表1が示すのは、E. L. Thorndikeの1万語についての調査結果である。左欄には使用頻度の高い順に一団の語彙数が示され、右欄には日常英語に占められる使用比率(%)が示してある。

[表1]

100 語	58.83%	2,500 語	96.76%	5,000 語	99.20%
500	82.05	3,000	97.66	5,500	99.33
1,000	89.61	3,500	98.30	6,000	99.46
1,500	93.24	4,000	98.73	6,500	99.53
2,000	95.38	4,500	99.00		

この表によると、最高使用頻度のわずか100語で約60%もカバーし、1,000語になると実に90%近くもカバーするということが読みとれる。しかし、それ以降は、語彙数が増えても比率の伸びは鈍化し、5,000語を超えた時点では伸びはほとんど停止してしまう。ここで言う使用頻度の高い語彙とは、いわゆる重要語ということである。このことから、英語学習上の一つのヒントが考えられる。それは、「これらの重要語を重点的に学習すれば、英語を効率的に学習できるのではないか」という考えである。事実そのように主張する人も多い。はたしてそうであろうか。

■重要語とはどのような語彙か

使用頻度の高い重要語とは、具体的にどのような語彙なのであろうか。次に示したのは、約100万語の語彙調査の結果に基づいて、その中で最も使用頻度の高い50語を頻度順に並べたものである(W. N. Francis & H. Kučera)。

the, be, of, and, a, in, he, to(不定詞の一部), have, to(前置詞), it, for, I, they, with, not, that(接続詞), on, she, as, at, by, this, we, you, from, do, but, or, an, which, would, say, all one, will, who, that(指示詞), when, make, there, if, can, man, what, time, go, no, into, could

これを見てすぐ気付くことは、ほとんどが代名詞・前置詞などの機能語(function word)であるということである。内容語(content word)はイタリック体で示したsay, make, man, time, goの5語だけである。ただし、表2に示したように、語彙数が増えるに従って、機能語よりも内容語の数が増えてくる。そして、やがて内容語の数が機能語の数を上回るようになり、それ以降はますます内容語の数が増えていく。

[表 2]

高頻度語群	機能語	内容語
50 語	45 語	5 語
100	71	29
150	91	59
200	102	98
250	113	137

このように、使用頻度の高い重要語の多くは機能語であるが、機能語というのは内容語を結合する働きをするものであり、それ自体では意味を伝達しない。意味の伝達の直接の担い手は内容語である。それでは、たとえば表 1 で、95%をカバーする 2,000 語を暗記すれば英語を理解できるようになるであろうか。残念ながら、答えはノーである。

■重要語だけでは英語は理解できない

もし英米人が 6 万語を知っているとすれば(R. H. Seashore)、理論的には、英米人と同じレベルで英語を理解するためにはやはり 6 万語が必要である。ただ、現実的には、日本人がこのレベルに達することは不可能に近いと考えるほうが自然であろう。しかし、6 万語以下の語彙であれば、英語を理解する際の不自由さは避けられない。したがって、問題はどれくらいの不自由さなら耐えられるかということになる。

一つの目安としては、R. Lado が留学生に求める最低 1 万語の語彙数が考えられる。6 万語からすれば、英語理解にかなりの不自由さが想像されるが、とりあえずの目標にはなり得るであろう。このレベルに達するために便宜的に重要語の学習をするのであれば、それはそれなりの意味がある。しかし、これはあくまでも学習の一過程にしか過ぎない。重要語だけの学習によって英語学習が完成されることは決してないのである。

©1993 Yukio Saegusa